

Market Watching

発表日: 2020年4月6日(月)

新型コロナ感染者の増加ペース鈍化は見えるのか(マーケットウィークリー)
～トレンドや対策時期から判断すれば中・韓→(欧州→北米→日本?)～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
3月30日(月)	—				
3月31日(火)	日本: 労働力調査・失業率(2月)	2.4%	2.4%	2.4%	
	日本: 一般職業紹介状況・有効求人倍率(2月)	1.45倍	1.47倍	1.49倍	
	日本: 鉱工業生産指数(2月)	+0.4%	0.0%	+1.0%	前月比
	日本: 商業動態統計・小売業販売額(2月)	+0.6%	▲1.5%	▲0.4%	前年比
	日本: 住宅着工戸数(2月)	87.1	82.6	81.3	万戸
	中国: PMI製造業景気指数(3月)	52.0	44.8	35.7	ポイント
	ユーロ: 消費者物価指数速報値(3月)・総合	+0.7%	+0.8%	+1.2%	前年比
	ユーロ: コア	+1.0%	+1.1%	+1.2%	前年比
	米国: シカゴ地区PMI(3月)	47.8	44.0	49.0	ポイント
	米国: 消費者信頼感指数(3月)	120.0	119.0	130.7	ポイント
4月1日(水)	日本: 日銀短観(3月)・大企業製造業業況判断 予測値	▲8 ▲11	▲10 ▲15	0 0	DI DI
	大企業非製造業業況判断 予測値	+8 ▲1	+3 ▲1	+20 +18	DI DI
	日本: 新車販売台数(3月)・乗用車	▲10.2%	—	▲10.7%	前年比
	中国: 財新PMI製造業景気指数(3月)	50.1	46.9	40.3	ポイント
	ユーロ: PMI製造業景気指数(3月)確定値	44.5	44.7	44.8	ポイント
	米国: ISM製造業景気指数(3月)	49.1	45.5	50.1	ポイント
	米国: ADP雇用統計(3月)	▲27	▲90	+183	前月差、千人
	米国: PMI製造業景気指数(3月)確定値	48.5	48.0	49.2	ポイント
	米国: 自動車販売台数(3月)	1,137	1,535	1,680	万台
4月2日(木)	米国: 貿易収支(2月)	▲399	▲400	▲453	億ドル
	米国: 新規失業保険申請件数(3/28終了週)	6648	3150	3283	千件
4月3日(金)	ユーロ: PMIサービス業景気指数(3月)確定値	26.4	28.2	28.4	ポイント
	ユーロ: 小売売上高(2月)	+0.9%	+0.1%	+0.6%	前月比
	米国: 雇用統計(3月)・非農業就業者数	▲701	▲61	+273	前月差、千人
	失業率	4.4%	3.9%	3.5%	
	時間あたり賃金	+3.1%	+3.0%	+3.0%	前年比
	米国: PMIサービス業景気指数(3月)確定値	39.8	38.5	39.1	ポイント
4月4日(土)	—				
4月5日(日)	—				

主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	0.595	▲8.0	▲47.0	▲210.6	0.425	1.115	1.443
日本	-0.010	▲1.5	+10.5	+4.0	-0.026	-0.033	-0.110
ドイツ	-0.441	+3.3	+18.4	▲44.9	-0.507	-0.388	-0.420
豪州	0.762	▲16.3	▲3.0	▲107.7	0.871	1.032	1.079
株価							
NYダウ	21052.53	▲2.7	▲18.8	▲19.7	22457	26626	26884
日経平均	17820.19	▲8.1	▲15.5	▲17.9	18748	21914	22007
ユーロSTOXX50	2662.99	▲2.4	▲21.0	▲22.5	2807	3436	3503
上海総合	2763.99	▲0.3	▲7.6	▲14.1	2841	2944	2935
為替相場							
ドル/円	108.55	+0.6	+1.4	▲2.6	107.72	108.96	108.33
ユーロ/円	117.13	▲2.6	▲2.2	▲6.5	118.86	120.19	119.92
豪ドル/円	65.10	▲2.2	▲7.7	▲17.9	66.68	71.87	73.10
ユーロ/ドル	1.0801	▲3.1	▲3.3	▲3.8	1.104	1.103	1.107
商品市況							
WTI	28.34	+31.8	▲39.9	▲54.6	29.76	46.91	52.86
金	1633.7	+0.5	▲0.7	+26.7	1598	1577	1514

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (3/30~4/3) の金融市場は、米国での感染者拡大ペースが急増したことで、株式市場は軟調に推移する一方、国債利回りは低下して株から債券への資金シフトが続いた。週内に発表された経済指標は、サービス業など非製造業の景況感が各国で大幅に悪化した一方で、製造業の悪化は市場の想定範囲内にとどまった (日本では欧米などとは逆の結果)。また、米国では雇用統計で就業者の急激な減少が確認されたが、関連統計などからは今後更なる記録的な悪化が見込まれる。

今週のマーケットは、拡大傾向を辿る感染者の増加ペースが鈍る兆候が見えてくるかどうか注目がされる。公表されているデータを見る限り、中国国内での感染は抑制傾向が続いており、春節の頃から執られてきた厳しい地域隔離政策が功を奏していることが確認される。公表されている感染者数などの数字の信憑性にはさまざまな見方があるが、武漢市の経済活動が再開され始めていることを勘案すれば、事態が沈静傾向を辿っていることはまちがいないさうだ。欧州では、イタリアなどで感染者の増加ペースの加速には歯止めがかかっている一方で、鈍化傾向が明確化しているとも言い難く、感染者の拡大ペースは高止まりが続いている。フランスやドイツ、イギリスなどその他の主要国も同様で、ロックダウンの解除など規制の緩和が見通せる状況ではない。感染者の増加ペースの鈍化がはっきりとしてくれば、その先数週間で解除の目処がついてくることが期待されるが、今後は感染者増加ペースの鈍化が明らかとなるかどうか注目にしたい。もっとも、欧州から感染爆発や対応のタイミングが遅れている米国では、そうした兆候が見えてくるのはさらにその先であろう。無論、感染拡大加速のリスクが高まってきた日本では、これからロックダウン→経済活動凍結となるリスクがある。欧米から、さらに遅れてさまざまな影響が出るリスクが高まっていることは、日本と海外の市場が異なる動きとなる可能性があることを示唆している。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

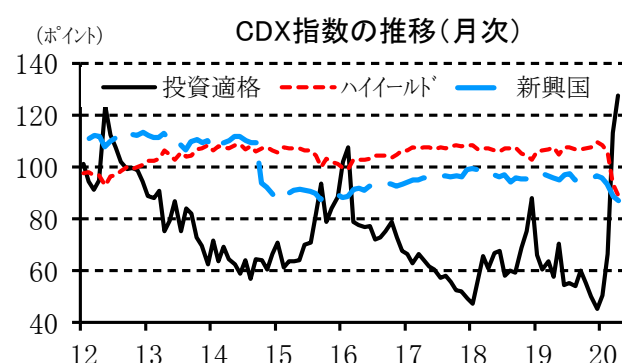
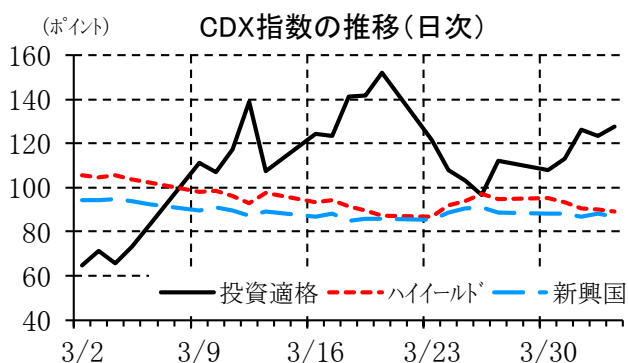
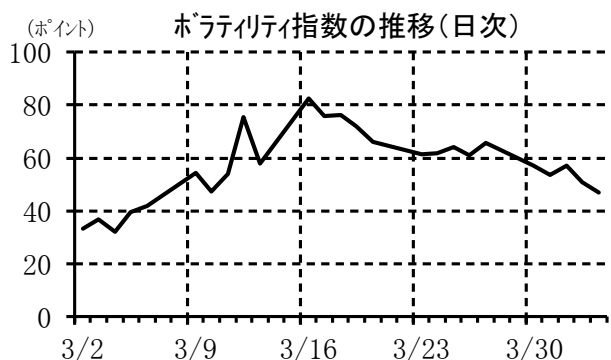
発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
4月6日(月)	日本：消費動向調査・消費者態度指数(3月)	★	35.0	38.4	ポイント
4月7日(火)	日本：家計調査(2月)・全世帯実質消費支出	★	▲3.6%	▲3.9%	前年比
	日本：毎月勤労統計(2月)・現金給与総額		+0.2%	+1.5%	前年比
	豪州：金融政策委員会	★★	0.25%	0.25%	RBA政策金利誘導目標
4月8日(水)	日本：国際収支統計(2月)・経常収支		+30,672	+6,123	億円、原数値
	日本：機械受注統計(2月)・船電除く民需	★★	▲3.0%	▲0.3%	前年比
	日本：景気ウォッチャー調査(3月)・先行き判断DI	★★★★	19.0	24.6	
4月9日(木)	米国：ミシガン大学消費者信頼感指数(4月速報値)	★★★★	82.0	89.1	ポイント
4月10日(金)	中国：消費者物価指数(3月)	★	+4.9%	+5.2%	前年比
	米国：消費者物価指数(3月)・総合	★	+1.6%	+2.3%	前年比
	米国：消費者物価指数(3月)・コア	★	+2.3%	+2.4%	前年比
4月11日(土)	—				
4月12日(日)	—				

(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

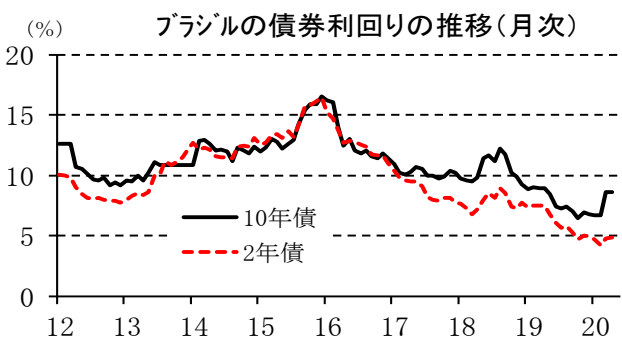
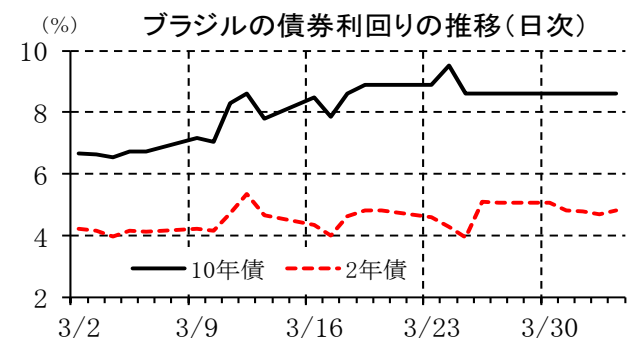
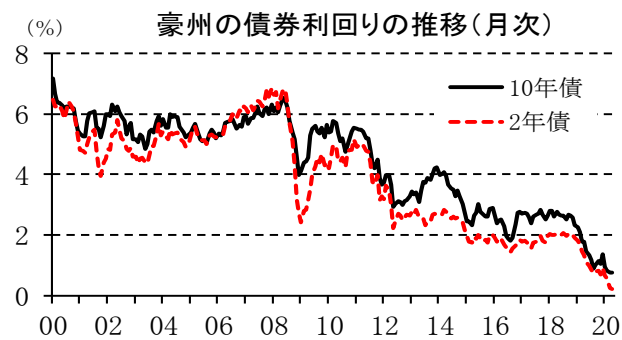
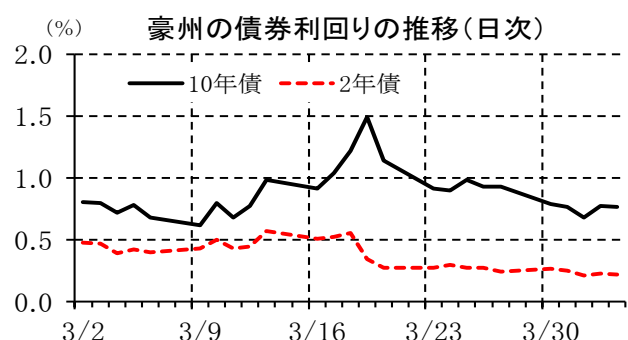
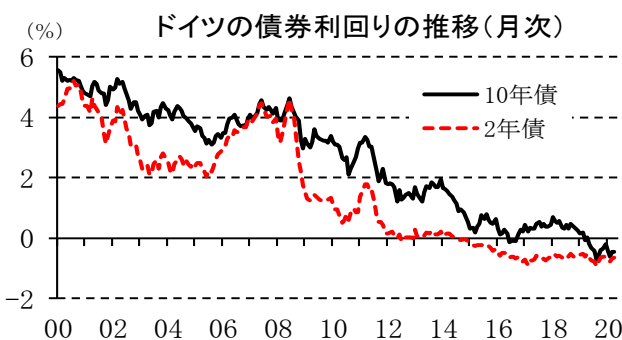
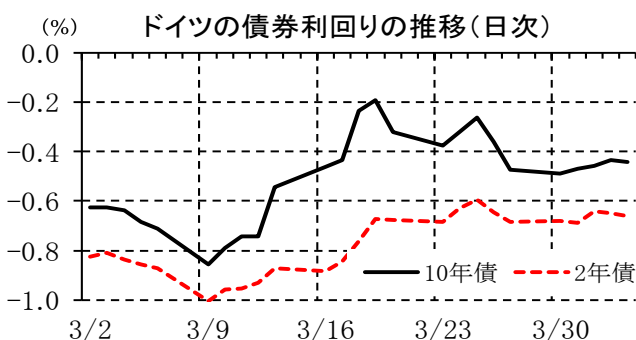
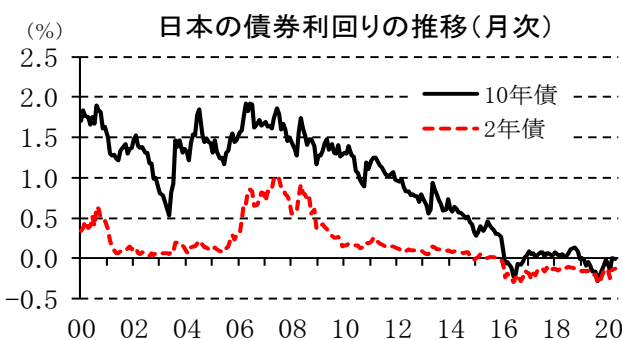
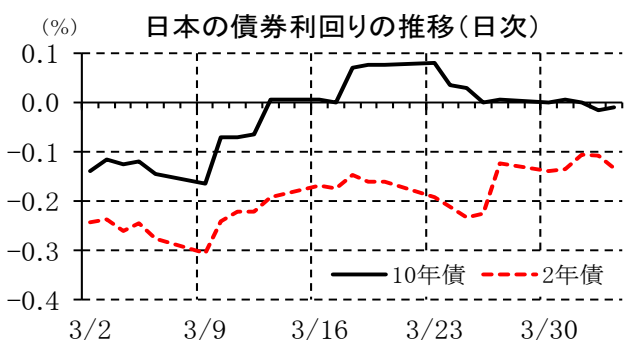
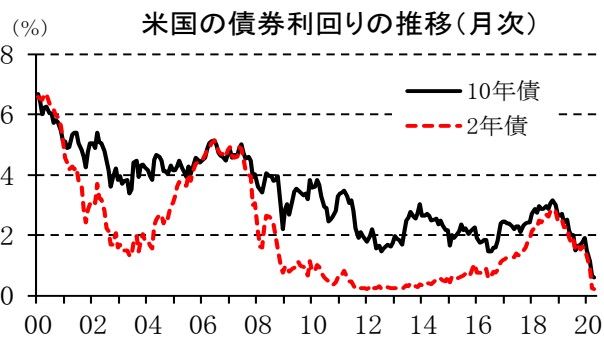
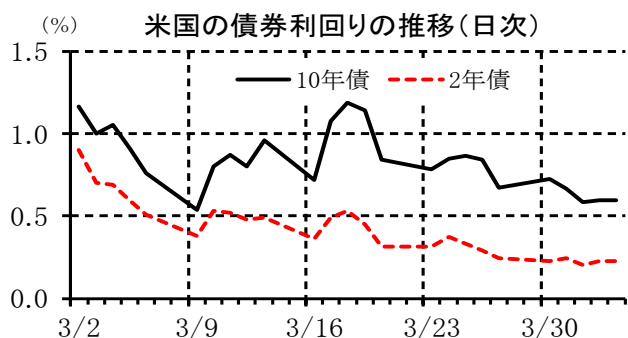
その他の注目イベント・材料

発表日	イベント	注目度	備考
4月6日(月)	—		
4月7日(火)	—		
4月8日(水)	米国：FOMC議事録(3月分)	★★★★	
4月9日(木)	日本：日銀支店長会議	★★	
	日本：日銀地域経済報告(さくらレポート)	★	
4月10日(金)	米国など祝日(グッドフライデー)		
4月11日(土)	—		
4月12日(日)	—		

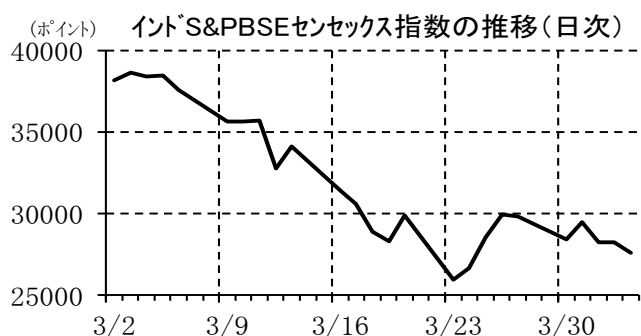
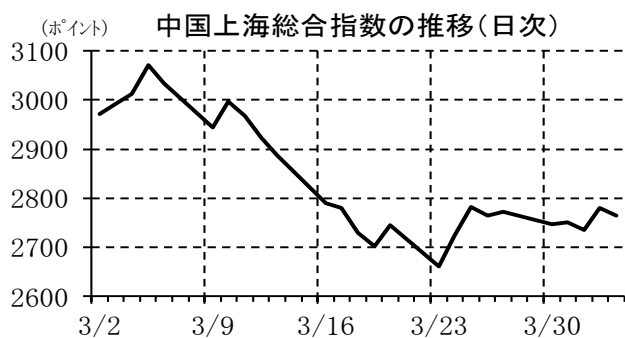
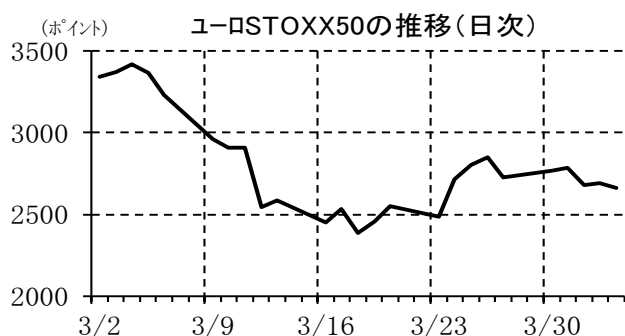
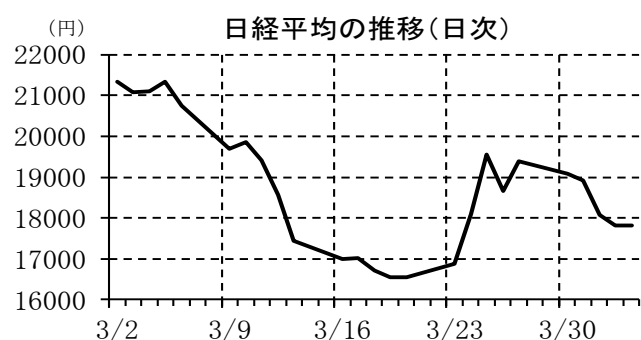
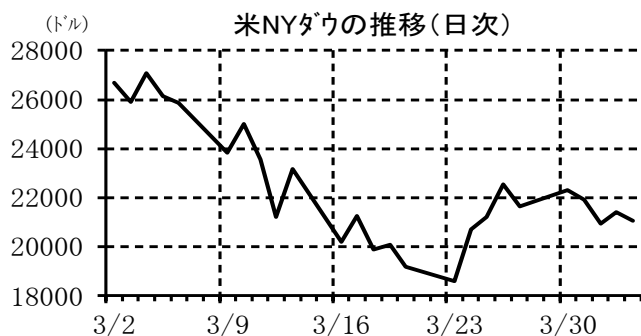
(注) 各種報道等による。注目度は筆者。



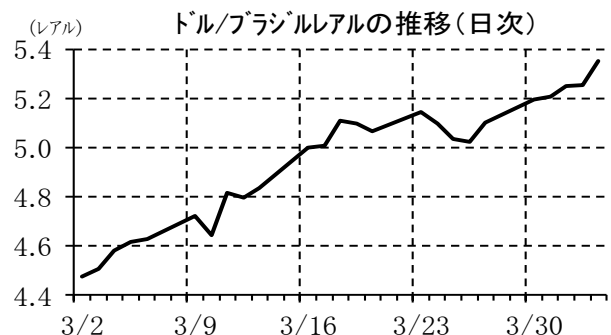
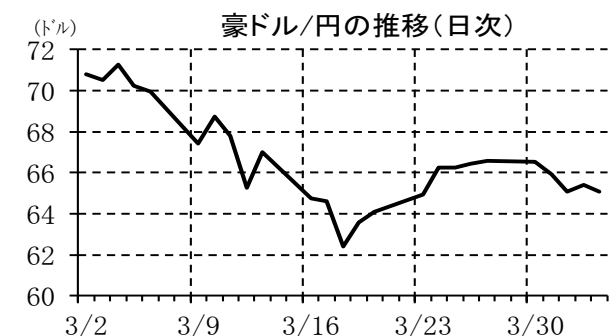
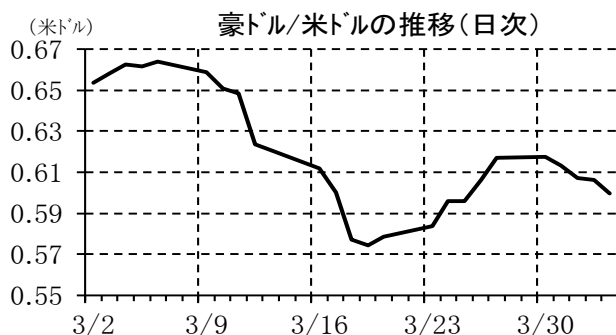
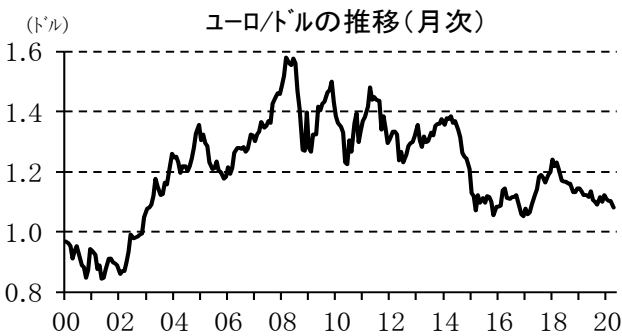
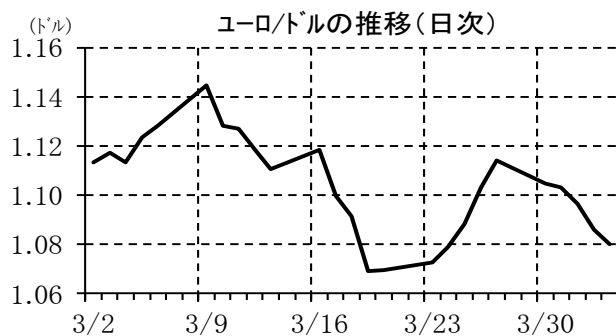
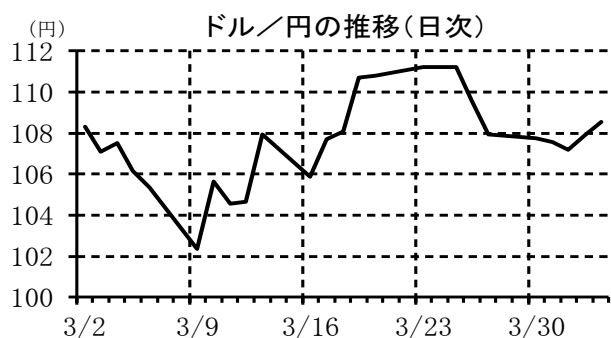
【債券利回り】



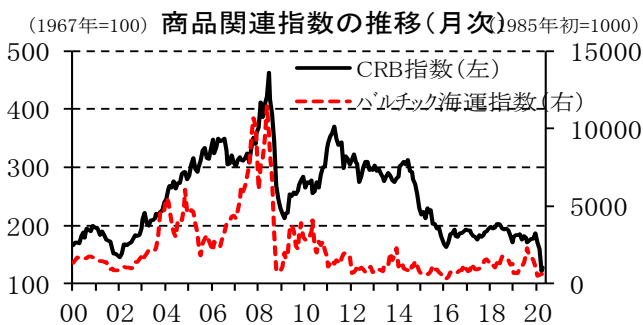
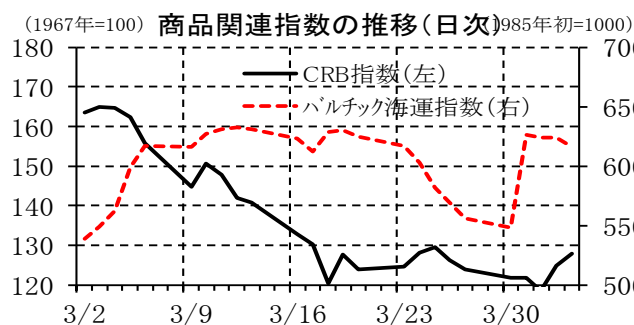
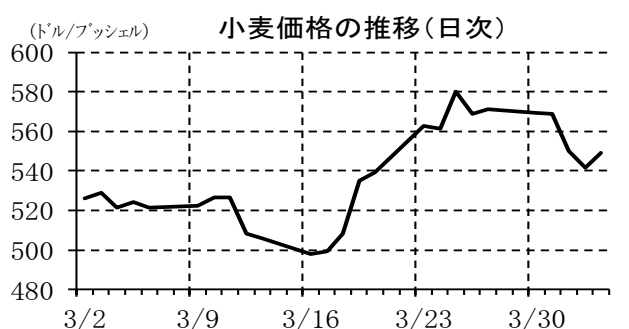
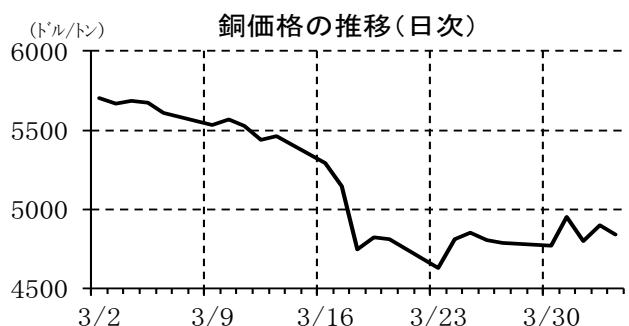
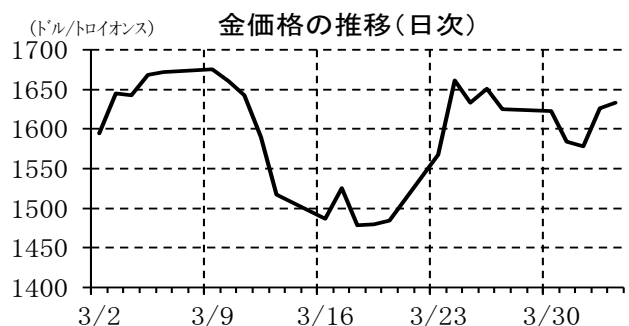
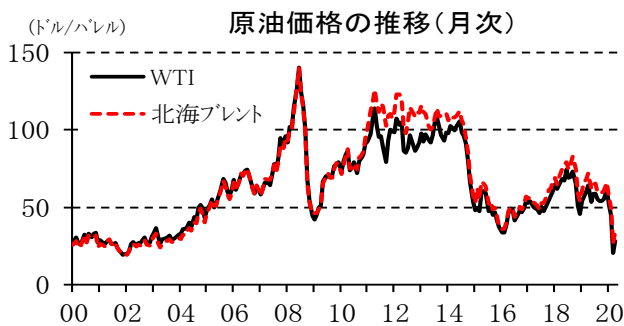
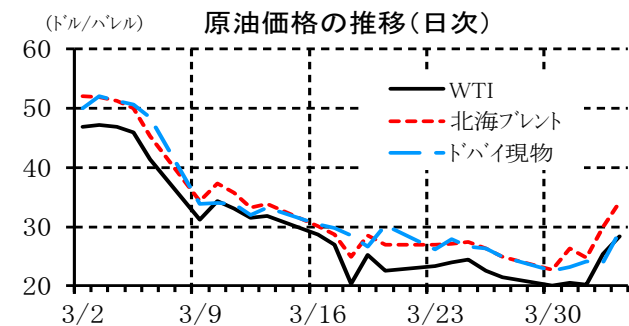
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。